

共生概念の二類型

有用性による共生・有意味性による共生

八木景之

(大阪大学大学院人間科学研究科・博士後期課程)

共生概念の重要性と曖昧さ

- 概念の重要性

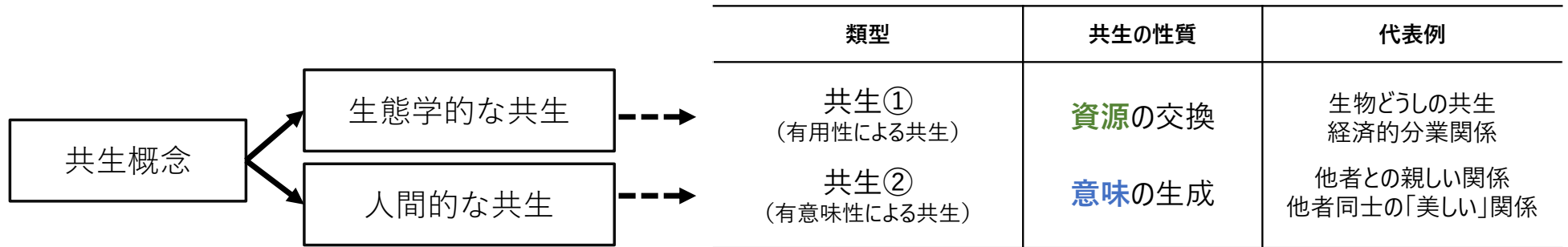
- 持続可能な社会（矢口 2019）
- 社会的分断の克服（塩原 2017）

- 概念の曖昧さ

- 共通の諒解がない概念（宝月 2017）
- 心地よい響きをもつスローガンであり厳密に定義されていない（小内 1999）

⇒ 概念のさらなる明確化が必要

共生概念の二類型



• 資源

「生存」や「利益獲得」など何らかの目的を達成するために使用・消費され、また、そうである限りにおいて価値がある、と見なされうるもの。

• 意味

差異ある二者が、その差異を維持したままで、同一の認識枠組みの中に共に組み入れられた時に生じる、すなわち『多様』と『統一』が両立した際に生じる積極的な価値感情。

具体例

- (a) 生物と生物の共生

⇒ (ほぼ全てが) **共生①**の関係性

- (b) 人間と自然の共生 / (c) 人間と人間の共生

⇒ **共生①** + **共生②**の関係性

※上記のa, b, cの分類は尾関 (2017) を参考にした。

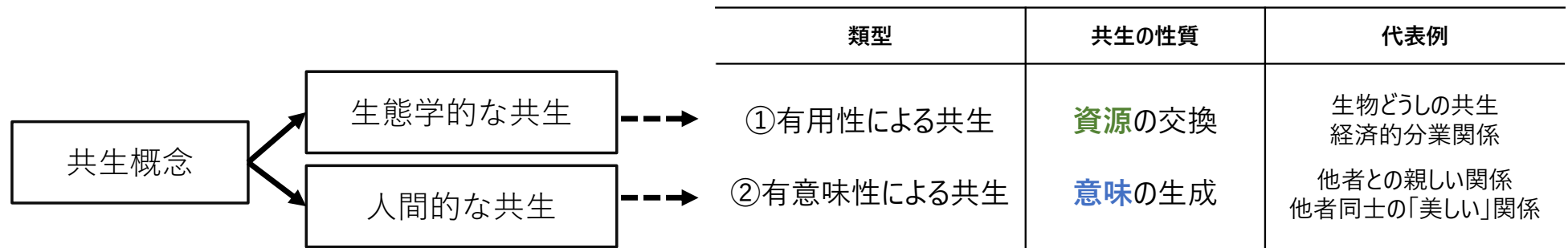
⇒人間における共生には、つねに**共生①**と**共生②**が混在する

類型間の差異

- 共生①は、主には**物質的關係**である。
 - しかし共生②は、常に**心的現象**（現象学的）である。

 - 共生①は、他者の**部分**との関係である。
 - しかし共生②は、他者の**全体性**との間に生じる関係である。

 - 共生①は、**消費**という性質のものである。
 - しかし共生②は、存在（実存的人間・人間性）における一つの**融合**である。
- ⇒ 「あるべき」共生社会においては、共生①と共生②のバランスが重要か



ご清聴ありがとうございました。

[文献]

○小内透, 1999, 「共生概念の再検討と新たな視点——システム共生と生活共生」 『北海道大學教育學部紀要』 79: 123-144. ○尾関周二, 2017, 「共生の三つの次元で新たな課題を考える」 『共生社会システム研究』 11. ○塩原良和, 2012, 『共に生きる-多民族・多文化社会における対話(現代社会学ライブラリー3)』 弘文堂. ○宝月誠, 2017, 「共生社会を目指して」 宝月誠・福留和彦・武谷嘉之編 『共生社会論の展開』 晃洋書房, 1-14. ○八木景之, 2020, 「共生概念の二類型——有用性による共生・有意味性による共生」 『共生学ジャーナル』 4: 30-54. ○矢口芳生, 2019, 「転換期にある現代社会」 『共生社会システム研究』 13: i-vii.

[報告者]

大阪大学大学院人間科学研究科 共生学系博士後期課程(D2) / 八木景之 (kageyuki.yagi@gmail.com)